

福井県立三方青年の家(1/2)

三方青年の家は縄文体験のできる宿泊研修施設です

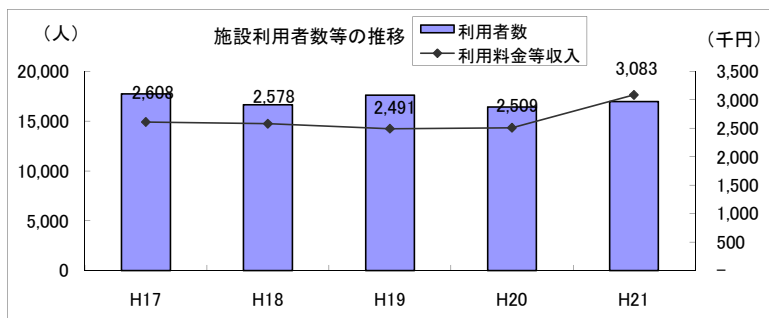
所在地	三方上中郡若狭町鳥浜122-27-1		
設置年月日	昭和38年5月1日(平成14年4月17日改築)		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階他、延3,583.77㎡ 宿泊室(120名)、研修室(90名)、多目的ホール(500名)、キャンプ場		
職員数	職員5人		

利用状況等

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	17,719	16,629	17,610	16,396	16,950

利用者負担(利用料金)等

施設使用料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校生	390円
	小・中学生	270円



利用状況の推移	近年の利用者数は、平成17年度の約18,000人をピークに、毎年約17,000人前後で推移しています。平成21年度は、前年度と比べて約3%の増加となりました。
---------	---

施設の特徴

嶺南地域における公共の青少年宿泊施設3施設のうちの一つ

嶺南地域には、公共の青少年の宿泊施設は3施設(若狭湾少年自然の家、敦賀市少年自然の家、三方青年の家)があり、低料金で利用できるため、小・中学校の宿泊体験施設やスポーツ少年団、子供会などの活動の場として幅広く利用され、児童生徒の体験活動を促進しています。

また、高校の部活動の強化合宿や生徒会のリーダー研修会などでも年間を通じて利用されています。

利用に配慮した施設

創作活動・実験・自然観察など学習活動が容易に行えるよう研修室を1階に配置し、野外施設との連携がとりやすいよう直接外出もできる構造としています。

体育館に多目的ホール機能を付加し、講演会やシンポジウム等の開催ができます。

主催事業の開催

次代を担う青少年の「生きる力」を育むため各種教育関係団体と連携して各種事業を開催しています。

雲龍丸乗船体験



たたき網in三方湖



三方青年の家ホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/mikata-seinen/index.html>

平成21年度の特徴について

事業実績	<p>文部科学省の委託事業である「青少年体験活動総合プラン」を受託し、「三方五湖」活用自然体験型環境学習実践事業として、三方湖クラブ員を募集し6月から2月まで8回にわたって三方五湖の自然を中心に様々な体験活動を実施しました。 【延参加者数:108名】</p> <p>わくわく体験塾を近隣の5施設(国立若狭湾少年自然の家、県海浜自然センター、若狭町立若狭三方縄文博物館、県歴史民俗資料館)と連携して、地域の自然や歴史に関する体験学習事業を実施しました。 【延参加者数:20名】</p> <p>このほか、レーザークラフト教室、雲龍丸乗船体験、優勝目指せ!かるた大会、オリジナルリースづくりなどの、児童とその家族を中心とした体験活動事業など7事業を開催し、426名の参加者と共に有意義な事業を展開することができました。</p> <p>また、公民館職員を対象に「三方青年の家 体験ツアー」を実施し利用の促進を図りました。 【参加者数:9名】</p>
------	--

福井県立三方青年の家(2/2)

行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	49,490	48.4%	94.0%
	退職給与引当金繰入	55	0.1%	100.0%
	賞与引当金繰入	2,546	2.5%	100.0%
	計	52,091	51.0%	94.3%
物にかかるコスト	物件費	21,162	20.7%	99.6%
	維持補修費	1,062	1.0%	117.7%
	減価償却費	13,176	12.9%	40.3%
	計	35,400	34.6%	64.5%
その他	支払利息	14,706	14.4%	92.3%
	その他	5	0.0%	100.0%
	計	14,711	14.4%	92.3%
合計		102,202	100.0%	81.1%
収入	利用料等収入	3,083	3.0%	122.9%
	一般財源	99,119	97.0%	80.2%

バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	1,408,894	97.7%	固定負債	935,235	91.7%
うち建物	1,405,066	97.7%	うち起債残高	896,300	91.1%
			うち退職手当引当金	38,935	110.7%
投資等	0	—	流動負債	90,589	95.1%
流動資産	0	—	純資産	383,070	117.2%
計	1,408,894	97.7%	計	1,408,894	97.7%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,741	1,774	98.1%
県民1人あたり将来負担額	1,155	1,255	92.1%
世代間負担率	27.2	22.7	119.9%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	行政コストは、全体では前年度とほぼ同額となっています。 他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから、県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) 【H22予算額: 約24百万円】
今後の課題	ラムサール条約湿地登録地の三方五湖や、縄文博物館が隣接する立地特性を活かした施設利用の促進が必要です。 主催事業の一層の魅力化と多人数参加型の事業についての検討が必要です。
今後の事業方針取組み内容	今後は以下の取組みにより、利用者増を図ります。 ・湖畔に立地している点、緑に囲まれている点、縄文博物館が隣接している点等を活かした各種体験事業、研修等に取組めます。 ・主催事業の企画実施にあたって各種教育関係者、地域との連携を図ります。 ・ホームページ等による広報に努めます。 ・利用者の立場を理解した施設利用の弾力化を図ります。

